



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
98.7.9 No. 4815

強制配転／運転保安／不当労政 恒常的スト体制強化を！

われわれは、「強制配転された仲間たちの原職復帰」「合理化・運転保安確立」に向けて春闘ストを引き継ぎ第三波ストの配置を含め、組織をあげた闘争を展開する方針を確立し、春以降の闘いに全力で決起してきた。そして、6月29日に開催された第39回定期委員会では、今後の闘いの展開について、次のとおりの方針を確立した。

最も有効な次期に 第三波ストを配置

① 第三波ストライキについては、この方針を断固として堅持しつつ、スト配置の時期については、「5・28判決」という重大な情勢の変化にふまえ、今後予断を許さない展開が予想される、国鉄闘争をめぐる情勢の動きを見すえながら、最も有効な時期に判断することとする。

全力で中労委命令 早期獲得をめざす

② また、中労委命令を原職復帰に向けた闘いの大きな契機とするために、早期命令獲得に向けた取り組みを全力で展開するとともに、委員会終了後速やかにこの間取り組みを行ってきた中労委への要請署名の提出をはじめとした要請行動を強化し、全力で早期命令獲得を目指す。

指名ストの配置を 含む闘いを展開！

③ また、改めて恒常的なストライキ体制を強化し、部分的な

指名ストの配置を含む闘いを積み上げつつ、強制配転問題の穴をあける第三波スト配置の有効な条件を創りあげてゆく。従って、不当な業務運営や組織破壊攻撃、運転保安を無視・軽視した業務運営があった場合には、いつでも指名ストライキに突入できる準備体制を全支部で確立することとする。

あらゆる課題を強制 配転闘争と一体で！

④ さらに、安全や技術継承の崩壊という深刻な事態の背景には、JRと革マルの異常な結託体制が存在するという観点から合理化問題、安全問題、日常的な業務運営上の問題、技術継承問題等、職場のあらゆる課題を、強制配転者の原職復帰をめざす闘いと一体の課題として位置づけて取り組む。とくに、原職復帰実現のためには、JR総連解体・組織拡大の取り組みの前進が不可欠の課題であるということとを肝に命じて、全組合員をあげた闘いを展開する。

運転保安上の全労 本部への集中

⑤ この間も、原因不明の列車故障、保安装置故障、架線故障が連日のように発生し、貨物でも上越線で車軸の溶損による脱線事故が再び起きるなど、運転保安の危機的状況は、より一層深刻化している。こうした事態にふまえ、何よりも、日々発生する様々な運転保安上の事象について、全てを本部に集中する

体制を強化し、運転保安要求や解明要求としてまとめ、徹底した原因や責任の追及を行う。

安全無視の業務に はいつでもストを

⑥ また、緊急を要する重大な事態が発生した場合や、安全を無視するような業務の不当な取り扱いや指示が行われた場合は、恒常的なストライキ体制の発動も辞さない闘いを展開する。

ダイヤ改訂に何日 た闘争体制を！

⑦ JR貨物の10月ダイヤ改訂12月に予想されるJR東日本の次期ダイヤ改訂を当面する焦点として、次のとおり、反合同争を全力で強化する組織体制を構築する。

JR東日本関係

(1) JR東日本については、この間取り組んできた仕業別実態調査にふまえて組合要求を集約し、次期ダイヤ改訂に向けた闘いを開始する。

(2) とくに、年令構成の歪みや背景とした鉄道業務の全面的な外注化攻撃が具体化されようとしている情勢にふまえ、構内外注化阻止を軸とした闘いの体制を強化する。

(3) JR貨物との受委託解消に伴う、工臨輸送等DL業務の拡大によって、様々な業務上の矛盾が発生している。手当問題、DLを担当できる者が極限られていることからくる矛盾、日常的な指導体制・異常時等の対応体制が全くない

こと等の問題点について、最低限の条件を整備させるために、全力で闘いを展開する。

(4) また、この間の不当な労務政策を背景として、運転士の高齢者対策、外勤・指導員の指定、各区の乗務分担、異動の基準、日常的な業務の指導の在り方等、あらゆる面において生じている業務上の歪みの抜本的な改善を求める。

JR貨物関係

(1) JR貨物の10月ダイヤ改訂では、動乗勤ダイヤ作成基準の再改訂が議論されている。また、要員の逼迫を背景としたさらなる業務の外注化攻撃も予想され、提案があり次第、動乗勤プロジェクトの開催等、直ちに闘いの体制を構築する。

(2) 京葉線貨物乗り入れのため、の鉄道事業免許の認可に伴い、二〇〇〇年度乗り入れに向けた準備がいよいよ具体化する。貨物の輸送ルート転換は、再び基地のあり方を含めた重要な闘いの局面をもたらすものであり、2年後を見すえいかなる攻撃にも対応し得る組織体制の強化を図る。

(3) 経営危機の一線を越えた深刻化を口実に、限度を超えた賃金格差攻撃が加えられ、また徹底した合理化、組織破壊攻撃が激化しようとしている。一切の根源は分割・民営化体制そのものがあり、貨物労働の解体を含め、その枠組みそのものをつき崩す闘いぬき、解決はつかないという立場から闘いを強化する。